

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400261		
法人名	株式会社エバカラー		
事業所名	エバホーム		
所在地	京都府木津川市梅美台2丁目1-1		
自己評価作成日	平成22年12月6日	評価結果市町村受理日	平成23年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671400261&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671400261&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年1月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「快互」というものを目指しており、利用者さんが常に快い状態でお互いに助け合える環境作りを重視しています。毎日、笑い声や歌声が聞こえてくる。そのようなグループホームです。  
スタッフ教育にも力を入れており、プロのいる家庭を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に基づいて、事業所独自の年間目標を掲げ、一人ひとりの利用者の尊厳を守り、その人らしく暮らせるよう日々の支援に当たっています。年間目標に沿って職員は個々の支援目標を作成し、利用者が豊かで楽しい毎日を過ごしてもらえるように努めています。毎月のケア会議には全職員が出席し、自由に発言したり司会や記録を担うことで、職員としてのスキルアップをはかっています。職員は、日々の介護の場面でわからない事や不安な事があれば、いつでも管理者やリーダーに相談が出来るよう体制が構築されており、意欲的に働く環境が整えられています。地域へは隔月に通信を発行し、ホームの行事や状況等について情報を提供しています。又、木津川市が主催する高齢者を支えるイベントには、講師として出席するなど積極的に、地域に根ざしたホームとなる様取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少人数様だからこそ出来る介護・サービスを理念に掲げ、その人らしく暮らしていただける背景を大切にしている。理念に基づいた年間目標を掲げ、達成に向けて評価を行っている。	利用者の尊厳を大切に地域で暮らし続けられるようにとの思いをもとに、事業所では理念を定めています。小人数だからこそ出来る「快互=介護」と謳い、年間の目標を作成して理念の実現に向けて日々快互を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時等に挨拶を必ずしている。自治会に加入し、地域の行事には必ず参加し、交流に努めている。	自治会に加入し、行事に利用者の作品を出展し、夏祭りや地域の清掃日には、車いすの利用者も一緒に参加しています。保育所の行事参加や中学校の体験学習の受け入れを行ったり、地域に向けたホーム通信を発信し事業所を知ってもらう事にも取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会のイベント参加時に、地域の人達の相談、質問に答えている。同一建屋内のグループホームフレンドと共同で、地域公民館での介護予防教室の開催を検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、家族様や地域の人々との交流を持ち、又意見については真摯に受け止め取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、行事や状況の報告を行い意見や要望を聞きサービス向上に繋げています。参加者からはケアへの質問や、提案などがあり、のどに詰めにくい餅の作り方や大量に頂いた野菜の調理法に至るまで活発な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との関わりは大切にしている。月1回のエバ通信を持参して関係を継続させている。	市職員の運営推進会議への出席があり、ホームでは依頼事項などがあれば気軽に出かけ話し合うようにしています。管理者は市役所との協力関係の大切さを理解し、毎月「エバホーム通信」を届け情報発信しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明し、教育にも取り組んでいる。「身体拘束ゼロ」宣言を掲げている。	日々の介護の中で、身体拘束をしないケアについて積極的に取り組み、職員のレベルに合わせた研修を行っています。新人研修などでは言葉の抑制についても説明し、言動を振り返り気づきに繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明し、教育している。定期的に社内研修でも、事例検討を行い、意識付けを行っている。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明、教育している。まだ適用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行った後、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等とは、十分なコミュニケーションをとり、意見等があれば、真摯に受け止めている。又、無記名の家族アンケートも行い、言いにくい事も言える様にしている。	面会時に家族と話す機会をつくり、リーダーや管理者は要望や意見を聞くようにしています。法人で無記名のアンケートを行い集計・分析し事業所内で検討しています。	家族の意見が出やすいよう無記名でアンケートを実施されていますが、出された意見や要望、運営への反映などを家族に伝えられては如何でしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議の中で、職員の意見を取り上げている。又、必要であれば代表者にも伝えている。	毎月のケア会議には全職員が出席し、自由に意見を述べ提案がなされています。本社に関わる案件は責任者が会議に参加し、提案を行い出された意見は運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々の状況に合わせた、働きやすい職場環境になるように、条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中段階研修、サブリーダー研修、リーダー研修を順次行っている。又、認知症介護実践研修、管理者研修、リーダー研修等を計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネブロック会への参加をし、交流を設けている。横のつながりを作り、双方の見学の機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、本人の困っていること、不安な事をよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関しての問い合わせがあった時や、初期面談時には、利用勧誘を前面に推し進めるのではなく、家族の困っていること、不安な事をよく聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に相談がある時は、ほとんどがグループホーム利用であるが、本当にグループホームでよいのか、一歩引いて観るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちの大先輩である事を念頭に置き、尊敬の気持ちを大切に、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族あってのご本人であるので、家族を含めての介護だと思っている。良い関係を築くことにより、ご家族と私たちは、車の車輪だと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆に家族と過ごす希望者には、薬や健康状態を説明し、支援している。又、車等で希望場所への観光にでかけている。	家族の協力を得ることで利用者の思い出や馴染の場所への訪問など支援を行っています。墓参りを希望されている利用者の思いを家族に伝え、毎月の墓参りが実現されています。昔話を傾聴する中で知った趣味の継続を試み、花の苗を買いに行くなどの支援に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不意な立ち上がりなど危険を察知したとき、職員に知らせてもらったり、車椅子を押してもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ退居された方がありますが、定期的にお見舞いに伺った事例がある。特養など他の施設に移られた場合も、お顔を見に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで情報を取り、時間生活習慣などを把握し、大切にしている。	入所前の面談は生活習慣や昔話を中心に、利用者、家族から聞き記録しています。思いを伝えるのが困難な利用者には表情やしぐさからよみとり、情報をアセスメントシートや基本情報に記入し全職員が把握しています。入居後のコミュニケーションも大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。入居される前にバックアセスメントをとり、職員会議で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン評価時に再アセスメントを行い、日々変化する現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの担当を作り、作成しているが、毎月のケア会議の中でチーム検討を行い、取り入れている。	家族の来訪時にミニカンファレンスを行い、要望を聞き介護計画を作成しています。毎月のケア会議は全職員が出席して行われています。アセスメントで把握した本人、家族の思いや希望を大切に、医師の意見も取り入れた介護計画で、3ヶ月に1回見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、日常の暮らしの様子やバイタル値、排泄状況、食事量、往診時の看護記録など記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着になり、今まで以上にご家族を含めたケアと考え取り組むようにしている。個別ケアを重要視している。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の研修を受けたり、近所の公共施設を使用したり、幼稚園に遊びに行かせて頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理の為、週1回往診に来て頂き、小さな変化も見逃さず医師に相談している。	利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医が決められています。協力医の往診は毎週あり、24時間いつでも連絡がとれる体制があります。協力医は認知症についても理解があり、適切な対応に向けた相談がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理の為、看護職員を確保し、週2回全入居者の状態確認をしている。気になった事はスタッフや往診医に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を交えて、病院の担当者と現況や予後の話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を定めている。また、ご本人、ご家族の意向を聞く話し合いの場を設定している。その都度、対応の仕方を含め、家族とも連絡を取り、話し合うようにしている。	事業所では看取り指針を定め、利用者や家族の思いに沿って出来る限り支援をしています。利用者の状況に応じて、家族には終末期への意向を聞き、医療面のケアが必要な場合などは他施設を紹介したり、本人や家族の希望に添うよう医師や看護師と共に支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。避難場所を職員全員が知っている。近隣の方には、非常時の応援をお願いできるよう申し入れている。	年2回防災訓練を併設するグループホームと合同で実施しています。1回は消防署が立会い、避難場所や誘導の方法等が伝えられ、全職員が把握するようにしています。民生委員、自治会にも働きかけたり、通信での地域への呼びかけが行われ、近隣の住民の避難訓練への参加を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性、人格を尊重した言葉かけ、対応をしている。	利用者は人生の先輩として尊厳をもって接しており、声かけや言葉使いには注意を払っています。またトイレのドアの開閉も最後まできちんと閉めるなどプライバシーの確保にも気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本位の考え方を尊重している。それぞれの認知能力に応じた選択肢を用意し、自己決定を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体の中での秩序や決まりはあるが、なるべくその人らしい暮らしを尊重できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っている。月に1度、プロの理美容の方に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は入居者の好みに合うもの、希望のあるものになっている。季節感も重視し、また昔ながらの行事色のある食事内容や個人の誕生日祝いの食事もしている。	地元商店との契約で、新鮮な無農薬野菜や米の購入を行い、皮をむいたり味見をしたり、利用者は出来る事に携わってもらっています。たこ焼き、わらびもち、ホットケーキ等、利用者と一緒におやつを作り、一人ひとりの希望を取り入れた外食にも出かけ楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食前には必ずお茶を出している。それぞれの好みを把握し、食事形態も日々の変化に合わせている。栄養士が時々、献立表の確認を行い、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自力で洗面台へ行けない方については職員が誘導しお手伝いしている。		

エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄表をもとに、昼夜のトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を促している。トイレ誘導はさりげなく行い、特に失禁時には周囲の方に気を配り、声を出さずにさりげなく誘導している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導をおこない、可能な限り布パンツでトイレでの排泄支援に繋がっています。夜間はポータブルを置き個別に対応し利用者の気持ちや思いを大切に自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、果物、野菜の多い食事を摂ってもらっている。散歩や運動を定期的に行ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調を見ながら支援している。一人浴で家庭的なかたちでゆっくりと楽しんでもいただけるよう努めている。季節に応じた入浴剤の使用も工夫している。	基本的には週3回で夕方の時間帯の入浴としていますが、希望に応じる体制があります。入浴剤を入れたり季節に応じたゆず湯や菖蒲湯を企画することもあり、季節行事として楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を勉強している。薬剤師や家族から説明を受けた内容を個別に記録し、医師の指示どおりに服薬してもらっている。症状に変化があれば記録し、医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯や取り入れ、調理の手伝い、買い物などはその人の能力に応じて役割分担してもらっている。裁縫の好きな人、書道の好きな人、手作業の好きな人それぞれに応じた材料を用意し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの、初詣、花見、紅葉狩り、近隣のイベント、ピクニック、外食など月に1回は皆で外出している。	利用者の希望に沿って近くの公園やコンビニなど日々近隣の散歩などを楽しんでいます。イベント参加や家族の協力を得るなど工夫をして外出の支援をしています。桜や紅葉の時期には車でドライブしたり、コスモスやヒマワリを見に行くなどしています。	



エバホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レクを取り入れ、支払い時に職員が手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使える環境とし、ダイヤルを回してから受話器を渡している。又、お盆、歳末の手紙等レクで取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光については日常生活上普通に対応している。季節感を大切に、レクなども取り入れながら空間作りをしている。	利用者の作成した壁画が飾られ、童謡など音楽を流し心地良いリビングになるように努めています。大きな丸テーブルを利用することでゆったりと過ごせる空間作りをしたり、エレベータホールのソファでは併設のグループホームとの交流の場になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的なリビングで気のあった方々と楽しく過ごされている。ピロティやフロアの空間にもテーブルと椅子を置き、居場所を一つとしない工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、装飾も各自お好きなようにされている。	居室はベットやタンス、整理棚が置かれています。希望で絨毯が敷かれたり、愛用していた布団の持ち込みもあり、人形や家族写真が飾られています。本人が安心して暮らせる環境になるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、お風呂の前には分かりやすい表札をつけている。壁には手すりがある。車椅子で自走しやすいように動線の確保もしている。		